

～ 東日本大震災から10年～

外国人住民とささえあう街づくりを考える

多文化共生対談 in いしのまき

SDGs未来都市



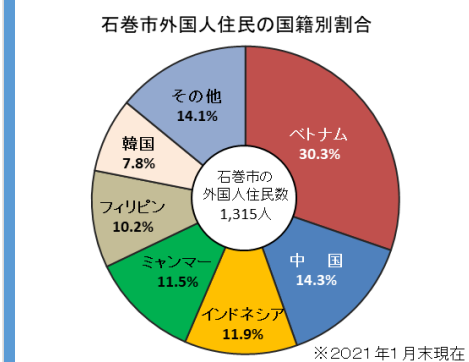
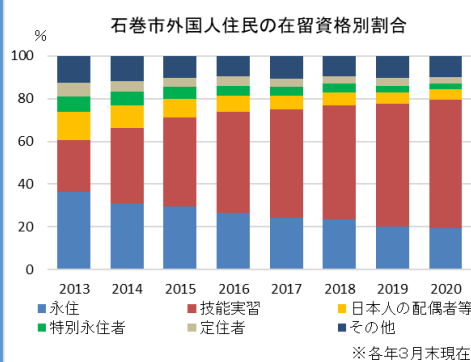
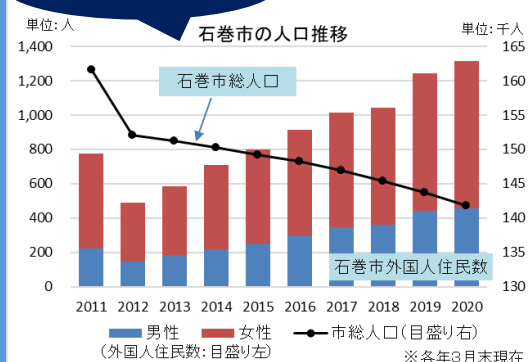
宮城県では、「多文化共生社会」の実現を目指し、平成31年3月に「第3期宮城県多文化共生社会推進計画」を策定し、「外国人住民等とともに取り組む地域づくり」を推進しています。令和2年度は、東日本大震災から10年目を迎えることから、震災やその後の復興を振り返りながら、震災の被害が大きかった沿岸部である石巻市で「多文化共生対談 in いしのまき」を実施し、その記録を広く周知広報することで、多文化共生に関する意識について更なる醸成を図ることとしました。

多文化共生対談 in いしのまき

- 主催 宮城県、宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会
- 共催 石巻市、(公財)宮城県国際化協会、国際サークル友好21
- 日時 令和3年2月7日(日) 午後1時から午後3時まで
- 参加者
 コーディネーター (公財)宮城県国際化協会 総括マネージャー 大泉 貴広氏
 対談者 国際サークル友好21 事務局長 清水 孝夫氏
 みやぎオーバースー協同組合 専務理事 國分 貴之氏
 三洋食品(株) 技能実習生 グエン ティ ルエン氏
 (医)ひまわりデイサービスセンター 介護士 高橋 リヤネット氏
 講評者 東北大学災害科学国際研究所特任教授 J.F. モリス氏

※多文化共生社会とは：国籍、民族等の異なる人々が、互いに文化的背景等の違いを認め、人権を尊重し、地域社会の対等な構成員として共に生きる社会

石巻市統計データ



出典：宮城県統計資料、石巻市統計資料

震災直後の状況及び取組

清水さん：

震災当時、中国温州市から石巻市にきていた106名の研修生のうち19名の行方が分からず、温州市の人民政府から、探してくれと連絡がありました。市役所の緊急車両で商工会議所の職員と、宿舎があった湊地区や避難所を回り、19名全員の研修生を見つけ、新潟空港経由で無事全員を帰国させることができました。また、被災された外国人のサポートもしました。罹災証明書を取る際は、名前や住所を漢字で書かなければならなかったため、市役所で一緒に並んでいる時間に、漢字を書く練習をしたり、他にも、仮設住宅の入居手続きやパスポートの再申請、銀行の預金通帳の復活手続きなどのお手伝いもしました。

國分さん：

震災当時、組合には、中国人の実習生等が149名在籍していました。女川町の42名の実習生等についても、自転車で渡波から女川に出向き、全員の無事を確認できました。帰国にあたっては、石巻にいた実習生達を大阪港から船で、女川町にいた実習生達は新潟空港から飛行機で帰国させることができました。帰国した実習生の両親から、私と家族の住居や仕事を何とかするから、とりあえず中国に避難してはと声を掛けてもらったこともありました。私どもの組合は、実習生等の銀行口座に

給与や生活再建支援金等を送金することが完了した際に、一旦解散になると思っていましたが、帰国した実習生等の中に、また石巻に戻りたいと、再入国を希望した実習生等がいたため、何とか存続させようという話になりました。原発の問題もあるなか親御さんの反対を押し切って、30名ぐらいが「会社の方々にさよならを言ってません」と、もう一度日本に戻って来てくれたのです。

ルエンさん：

震災当時は、ベトナムにいました。2年2ヶ月前に石巻に来たときも、石巻で大きい地震と津波があったことはわかりませんでした。3月11日は会社が休みだったので、「なんで休みなのですか」と会社の人に聞いたら、この日は石巻で大震災がおきて、全部流れたと聞いて、びっくりしました。

でも、大震災があったのに石巻はきれいです。日本人は、本当に頑張りましたと感じました。

それから、2011年3月11日にこの高さまで津波がきましたというサインがとても高いところであって、びっくりしました。今もたまに地震がありますが、とても怖いです。

リヤネットさん：

震災直後は、小さい子がまだ2才で、寝たきりの義理の父がいたので、避難所には行かず、家で過ごしました。チリ地震を経験している義理の父のアドバイスのおかげで備えていたので、

食料で困ることなかったです。そのあと、少し落ち着いてから、フィリピン人から家族の安否確認や火葬の方法などについて相談が寄せられました。滞在歴が長くない人たちは言葉の問題があり、助けを求められない状況でした。震災のあと、国際サークル友好21の教室に通う人が増えたのですが、それは、日本語はもちろん、日常生活のやり方を教えてくれるからです。私も、友好21のことを外国人や外国人が働く会社に紹介していました。

震災後の石巻における外国人在留 状況の変化と新たな取組

國分さん：

私どもの組合は震災前までは中国から研修生の受入をしていましたが、2014年からベトナムからの実習生の受入を始めました。その背景としては、中国自体が発展をしたことがあると思います。中国の賃金上昇もあり、日本への出国熱もなくなってきました。そこで、私たちは中国に続く第二の国として、受け入れた実習生の評判がよかったベトナムを選びました。今現在では、175名のうち95%以上がベトナムからの受入になっており、これは日本全国同じような動きであると思います。



大泉さん：

石巻で技能実習生として働いているルエンさんは、どのような仕事をしていますか。

ルエンさん：

私の会社には、約50人の外国人従業員がいます。ベトナム人は13人います。鯖、いくら、鮪、たらこを加工する仕事をしています。ベトナムでは、魚を切ったり、さばいたりしたことがなかったので、初めは大変でした。魚の種類もいっぱいあるので難しかったです。間違った時は、もちろん叱られました。その時は辞めたいと思ったこともありましたが、私は、諦めませんでした。どうすればうまくできるのか、毎日勉強しながら頑張っ、仕事をしてきました。勉強を重ねるうちに、上手にできるようになりました。本当によかったです。仕事が休みのときは、最近はコロナウイルスの影響により、外出できないので、たまに買い物をするほかは、日本語を勉強しています。

<ルエンさんの職場の方のお話>

- ・ルエンさんは大変努力家で、毎日の生活の態度もとても真面目です。
- ・ごみ出しのルールなどもきちんと守るので、地域の人達からも誉められています。

大泉さん：

技能実習生が増えてきたということで、国際サークル友好21の活動にも変化があったようですね。

清水さん：

震災後に、防災研修会に参加していた技能実習生達から、日本語を教えてくださいと強い要望を受け、市役所や日本語教室の先生方と相談して、市総合福祉会館「みなと荘」での技能実習生向け日本語教室を開講しました。ベトナムの他にインドネシア、最近ではミャンマーなどの受講生も来ています。母国の郷土芸能や料理を紹介する機会に参加してくれたり、日本語教室そのものが活性化してきました。技能実習生は、非常に明るいです。我々も元気をもらっている状態です。そういう意味でも、みなと荘教室を開いてよかったと思っています。

大泉さん：

ルエンさん、みなと荘教室の勉強はどうですか。

ルエンさん：

ベトナムでは日本語を3ヶ月ぐらい勉強しましたが、日本へ来て、皆さんが話している日本語が理解できませんでした。漢字が一番難しいです。そのような事もあったので、今、日本語教室に通っています。先生からやさしく日本語を教えていただいています。また、日本語教室には、いろいろな国の人が集っています。初めて外国人の友達ができました。書初めやお花見など、勉強以外のことも体験しています。お陰で楽しく過ごして

います。感謝しています。

藤原さん（国際サークル友好21会員）：

ベトナムからきた子たちは、素直に話を聞いてくれて、交流会にも喜んで参加してくれます。それをfacebookにも載せてくれているようです。日本に来て、仕事だけではなく、若い時にできる楽しいこともいっぱい経験してもらえれば嬉しいです。

國分さん：

実習生からは、様々なイベントに参加して楽しかったという話を聞いています。実習生は様々なところで顔を出したいと思うので、多くの経験を積ませたいですね。このような機会が増えてくれば、石巻に行きたいという魅力になっていくと思います。

大泉さん：

石巻では大勢の技能実習生が水産加工の企業で働いていて、震災からの復興に大きな貢献をしています。そして、市や市民団体などが、様々な機会を設けて地域と実習生の接点を作る、とても良い取組がされていますので、今後も続けていただければと思います。

支援プログラムによる 外国人の働き方の変化

リヤネットさん：



震災後、東京からNPOがきて、仕事を探している外国人に、介護の勉強を教えますという話があり、参加しました。様々な国の外国人が集まり、介護の勉強に取り組みました。教科書の1ページ目からほとんど漢字で、「え？何これ！無理！」と思いましたが、先生たちはとても教えるのが上手で、わからない漢字にはふりがなを振ってもらい、辞書で調べることから始まりました。私は、普段から、寝たきりの義理の父、足の不自由な義理の母、認知症の祖母のお世話をしていましたが、これが介護だったんだ！って、そのとき思いました。それに気付いてからは、さらに真面目に勉強しました。その後、無事ホームヘルパー2級（現在は介護職員初任者研修）の資格をとり、今の施設に採用され5年目になりました。今、私は、1ヶ月に2回、施設で利用者を対象にした英会話教室を開いています。テストもするんですよ。逆に利用者の方々からは、日本の文化や昔のことをたくさん教えてもらっています。皆さん家族のように温かいんです。この仕事に取り組み、本当によかったと思っています。

<リヤネットさんの職場の方のお話>

- ・持ち前の明るさで利用者の方からも大人気で、利用者はリヤネットさんに会うのを楽しみにしています。
- ・リヤネットさんのことを娘のように思って、温かい関係が築けているようです。

大泉さん：

石巻には、介護以外にも、看護の現場で働いている外国人もいますね。

清水さん：

私どもの日本語教室にも、介護・看護関係の外国人が通っています。特にフィリピンとインドネシアの人は、介護の仕事につく方が多くなってきており、今後も更に増えていくと思いますし、介護の資格が容易に取れる環境を作っていかなければならないとも考えています。

他にも、ベトナム人実習生で日本語能力試験のN1、N2に合格され、活躍されている方もおりますし、帰国後、日本語の先生をされている方もおります。

大泉さん：

リヤネットさんたちが立ち上げた「ハワックカマイ」では、どのような活動をしていますか。

リヤネットさん：

2018年西日本豪雨災害の時は、被災地を支援するための募金活動をヨークベニマル中里店でしました。また、大崎市で台風による水害が起きた際は、ボランティアに行き、がれき撤去や掃除をしました。日本人と繋がることもでき、本当に参加してよかったと思いました。

それから、社会福祉協議会主催の石巻福祉まつりでは、フィリピンの踊りを披露したこともあります。

清水さん：

募金箱や募金の看板などは、全部、市役所で作っていただきました。また、ヨークベニマルさんの協力と支援もありました。それから、各新聞社にも記事として取り上げていただき、協力してもらいました。

さらに、福祉まつりの際は、終了後の交流会にも呼ばれ、市長や福祉団体など様々な方とも交流もできました。

市役所や地元の企業なども、このような活動に積極的に協力していただいています。

<震災後に発足した海外出身者のコミュニティ>

●「ハワックマイ」

構成員：主にフィリピン国籍

名称意味：手をつなぐ会

●「エスペランサ・デ・ラティーノ」

構成員：コロンビア、ボリビア、ペルー、ブラジル、キューバなどの中南米国籍

名称意味：中南米の希望

●「メエラ・プティ」

構成員：インドネシア国籍

名称意味：やさしい心と勇氣

※これらのコミュニティは、母国の災害支援をきっかけに結成されたもので、東日本大震災でお世話になった恩返しとして、国内の熊本地震や西日本豪雨災害などの募金活動も行っています。

また、同胞の支援活動もしています。

多文化共生の地域づくりを

今後更に進めるためには

國分さん：

石巻という地域を選んで来てもらえるようになると良いですね。そのために石巻にいる海外の方の存在をもっとアピールするとともに、海も山あり、人もいいという石巻の魅力をアピールしていくことも必要だと思います。小さなことから、例えば、海外の方を中心にした成人式を催す、街並みの多言語表記（ベトナム語、中国語等）を増やすといった、細かな配慮を外国人と同じ目線でしていくことが大事だと思います。

清水さん：

石巻で暮らしている外国人に、居心地がよく暮らしやすいと思っていただけるような街づくりをしていくことが、多文化共生の地域づくりと思っています。地域ぐるみで、多文化共生を具体的に実践していく時代になっていると思います。行政はもちろん、教育、医療、福祉、雇用、国際交流、福祉団体等の関連する人たちが集まってネットワークを作り、それぞれの分野で多文化共生を実践すべきだと思います。一部の関係者だけでなく、町内会が自ら行動を起こすということもぜひ欲しいです。これからは、実習生や外国人と、いつでも挨拶したり、何か分からなくて困っていれば教えてあげたり、町内会の行事に参加してもらったりすることが必要です。外国人も同じ市民ですから、町内会ぐるみ、市民ぐるみで、外国人と接して、多文化共生社会づくりを進めて欲しいと願っています。

リヤネットさん：

外国人が学ぶ機会があるといいですね。例えば、給料の明細書には、介護保険、国民健康保険などの税控除が記載されていますが、会社の人に聞いて、その意味が初めて分かりました。そういった社会保障制度などの社会の仕組みについて理解を深める機会を設けて欲しいです。さらに、夫のお墓に入っているのかといった、人生の終い方についての勉強会もあるといいですね。



ルエンさん：



外国人は日本語を勉強しないとイケないと思います。それから、日本人にもちょっとやさしくしてほしいです。私は、日本人が冷たいと思うと、おしゃべりができません。私は、日本語を一生懸命勉強します。そして、日本人にももっとベトナム文化に興味をもってもらいたいです。

藤原さん：

一般的な日本人は、早口で、難しい言葉を使いがちで、「外国人＝英語を喋らなければいけない」というような、外国人へのコンプレックスを持っていると思いますが、やさしく、わかりやすく、漢字を使わず、ひらがなで話すという気持ちで、接してお話しすれば、外国人も日本人への親しみを感じてくれると思います。外国人を見かけたら「こんにちは」の挨拶から、距離を縮めていくような努力を、私たちがしていく必要があると思います。



今後の目標・希望

清水さん：

多文化共生社会を作るために、行政的な配慮はもちろんのこと、特に、町内会の皆様の理解と協力が必要です。

近くに住んでいる外国人と気軽に挨拶をしたり、ゴミ出しのルールを教えたり、祭りや防災訓練に参加してもらったり、料理や文化を教え合うなど様々な取組ができる社会を一日でも早く実現できるよう共に行動したいと考えています。実習生は不安を抱えて来日します。実際に来てみたら言葉や文化の違いも、さほど心配したほどではなく、何よりも、石巻は安全で生活しやすく、市民もフレンドリーで「石巻に来て良かった!」「また石巻に来たい!」と思ってもらえるような、そんな街にしていきたいことが私たち市民一人ひとりの務めだと思っています。

國分さん：

今、町内会では、日本人の参加も消極的になっているなど、運営自体に課題があるとは思いますが、外国人との共生に向けた催しの企画は必要になってくると思います。さらに、私たちの組合では、実習生に、会社以外でも近隣住民や道ですれ違う方に、積極的に笑顔で挨拶をなささいという話をしています。また、実習生はお預かりしている命なので、必ず無事に親御さんの元に帰ってもらうのが一番の目的であり、今後も続けていこうと思っています。

リヤネットさん：

私の目標は国家試験に合格することです。介護の仕事の続け、周りの外国人にいい影響を与えるように頑張ります。これからも外国人が増えて欲しいし、増えることによって、外国人と地域のつながりが広がっていきます。

日本人は、会話が苦手ですが、こんにちはという言葉ではなくても、目があって「どうも」という会釈でも全然違うんです。私たち外国人が明るく話しかけることで、シャイな日本人の心の中を明るくしたいと思います。

ルエンさん：

以前は、日本語は難しくて無理だと思いましたけど、今は頑張っ勉強しています。日本語を勉強すればするほど、日本と石巻が好きになりました。まだ、少ししか日本語は話せませんが、頑張っ勉強して、日本語の先生になりたいと思います。皆様応援してください。

大泉さん：

今日のお話で、この10年のあいだ、石巻では様々な形で多文化共生に関する取組が行われていることが分かりました。中長期的に見れば外国人が増えいくと予想される中で、令和2年度、石巻市は「SDGs未来都市」に認定されました。

「SDGs未来都市」というのは、持続可能な地域社会となるために、今ある課題の解決を目指して力を合わせる、そいう取組をする都市のことです。そのモデルになる都市として石巻市は認められたわけです。持続可能な地域になるためには、多様な文化背景をもった人の力を社会に生かしていくことも、とても大切な要素の一つだと思います。「SDGs未来都市」にふさわしい多文化共生の地域づくりが、この石巻で今後も展開されることを期待しています。(了)

講評

今回の対談のキーワードをそのタイトルから拾い上げると、東日本大震災から10年目での振り返り、外国人住民と支え合う街づくり、多文化共生と、「SDGs未来都市」の指定を受けた石巻のあるべき姿について新しい知見を見出すことが本対談の狙いだったことが見えます。対談者4人それぞれのお話に耳を傾けるべき内容が数多あるが、全体を通して、当日の対談と石巻市、そして日本国内のすべての地方都市の立場になって考えた場合の注目点について説明したい。

2011年当時、「絆」という言葉が流行したが、10年経った今、この言葉の重みは忘れかけられているように思う。逆に「自助・共助・公助」というもう1つの当時の標語は、歪められた形で今ももてはやされているが、この2つの概念は、まさに、本日のお話を理解し、応用するためのキー概念となる。そして、これらの言葉の対極になる言葉は、「外国人」である。「外国人」または「ガイジン」という言葉は、日本語として、得体のしれない不気味な存在、語義通り、日本の社会の外にある者を意図している。清水さんが指摘した通り、例えば、役所の日常業務の中で外国人が特殊な存在ではなく、住民としてどのぐらい扱われているのだろうか。

高橋さん、ルエンさんの話は、外国人住民が地域社会と如何に関わろうとしているかを示す。また、高橋さんは、津波を契機に地域の外国人同士の自助・共助から出発して、現在、国内外へと扶助の輪を広げている好例である。ルエンさんの日本語学習と合わせて、両者の頑張りや周囲の日本人から市役所まで巻き込んだ新しい人間の繋がりを創造していることに注目したい。清水さんは、技能実習生を含め外国人住民を町内会レベルから社会の主流の中に取り込んでいくべきだと主張している。見えない不気味な存在から、外国人を顔の見える人間に変えなければならない。逆に、國分さんが町内会そのものの危機を指摘していることも、「SDGs未来都市」を目指すすべての地方自治体の課題を鋭く突いている。外国人住民や多文化共生の課題は、外国人だけを見ていたら絶対に対応できない。高橋さん、ルエンさんの話は、外国人の自助・共助が相互作用を起こし、ついに市の公助を引き起こし始めたことを示す貴重な事例である。自助・共助・公助は別々のものではなく、三者がうまく連携した場合に大きな相乗効果を生み出していく。現在の日本政府の外国人・多文化共生政策にもっとも欠けているのは、この発想とそれを形にするための政策である。

東北大学災害科学国際研究所特任教授 J.F.モリス氏

オーストラリア国立大学で日本語を専攻し、1974年に東北大学文学部国史研究室(当時)に留学、1986年に文学博士(日本史)を授与される。1989年から宮城学院女子短期大学国際文化科で教鞭をとり、2020年3月に同大学日本文学科定年退職。専門は、仙台藩の武家社会を中心とした近世史だが、多文化共生、オーストラリア先住民の歴史、文化遺産レスキューや災害後の被災者に対する心理社会的支援について著書・論文も多数。現在、東北大学災害科学国際研究所の特任教授。



総括マネージャー 大泉 貴広氏

国内外の教育機関や公的機関で日本語教育に従事した後、1999年より(財)宮城県国際交流協会(現(公財)宮城県国際化協会)に勤務。地域日本語教育推進事業、外国籍児童生徒支援事業、技能実習生と地域との関係づくり促進事業などの企画・運営を通して本県の多文化共生推進に努めている。



事務局長 清水 孝夫氏

1941年石巻市生まれ。石巻商高卒業後、石巻商工会議所に入所後は、中国浙江省舟山地区との経済交流や、中国温州市との友好都市締結に関わった。定年退職後は、国際サークル友好21を設立。日本語教室を開設し外国人の支援活動を推進するとともに東日本大震災発生時は、外国人の安否確認と支援活動に関わった。



専務理事 國分 貴之氏

1974年福島県生まれ。文教大学国際学部卒業後、中国の天津大学へ留学。帰国後、外国人研修生・技能実習生に携わる業務に従事。現在までに外国人技能実習生に携わる業務に関わり22年。現在は石巻市にてベトナム・中国人技能実習生を受け入れる監理団体に在籍している。



技能実習生 グエン ティ ルエン氏

ベトナム社会主義共和国グアン県出身で、母国ベトナムにて、サムスン等に勤務。その後2018年技能実習生として来日。2020年より三洋食品(株)石巻工場の技能実習生として勤務し、現在に至る。目下、日本語検定3級合格を目指し勉強中。趣味は音楽。



介護士 高橋 リヤネット氏

1976年フィリピンマニラ生まれ。1996年ホテルのタレントとして来日後、国際結婚、一男五女の母親となる。その後は、石巻市教育委員会定住外国人支援員や同小学校英語指導員、同市外国人相談窓口相談員を歴任。他にも、在日比人や比台風災害に関わる支援活動等を実施した。現在は、(医)ひまわりデイサービスセンターに介護士として勤務。

石巻市外国人相談窓口

石巻市では、外国人住民及び外国人住民への情報提供等でお困りの日本人住民のための相談窓口を設置しています。

14言語で相談できますので、日常生活で困っていること、市役所での手続き、日本語教室や専門相談機関の紹介など、お気軽にご相談ください。

【対応言語】 英語、中国語、ベトナム語、韓国語、タイ語、ロシア語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、タガログ語、インドネシア語、ネパール語、ヒンディー語、日本語

※火曜日は中国の相談員、木曜日はベトナムの相談員が9時～15時15分までいます。

【場所】 石巻市役所 4階 地域振興課
【時間】 平日9時～17時
【電話番号】 0225-95-1111 (内線 4245)



※この資料のデータ(PDF)は、県ホームページからダウンロードできます。

